

2022 年 9 月期 第 2 四半期決算 WEB 会議 Q&A (2022 年 5 月 11 日開催)

シミックホールディングス株式会社

Q.通期見通しの上方修正は、上期の上振れが主な理由か。

⇒上期業績の上振れが主な修正理由。ヘルスケアソリューション事業のワクチン接種支援の影響が大きい。

Q.製薬ソリューションの受注高が増加しているが、各事業の内訳はどうか。

⇒各事業で順調に推移し、ほぼ均等に増加している。特に CDMO の受注は長期の契約を短期に継続的に計上していくもので、国内の受注が活況になっている。

Q.CDMO の受注は先発薬、注射剤が中心か。後発薬の受注状況はどうか。

⇒先発薬・注射剤・長期収載品それぞれ受注している。受注にはまだ入っていないが、安定供給の観点から後発薬の引き合いは多い。

Q.足利注射剤棟のキャパシティの状況、本格的に商業生産が開始する時期はいつか。

⇒足利注射剤棟の 2 ラインともにほぼフル稼働状況であり、FY22 の下期から業績貢献する。

Q.Science37®とのパートナーシップに関して、DCT の取り組み状況はどうか。

⇒DCT の実施には、オンライン診療、訪問看護、サテライト施設の連携、電子的同意取得など様々なコンポーネントが必要で、それぞれに外部ベンダーが存在する。そこでグローバル治験において存在感があり、全てのコンポーネントを有する Science37®との提携を通じて、受注機会の拡大を図っている。また、日本では医療アクセスが良いことから、臨床試験が多施設において実施されているが、DCT を通じて少ない施設で症例数を確保し、効率的かつスピーディな臨床試験を進められるよう取り組んでいる。

Q. マーケットソリューションズ事業の受注が伸びていると思う。製薬企業では MR 削減が進んでいるが、リモートでのコントラクト MR が増えているか。

⇒今期コロナワクチン関連の案件が受注に貢献したが、それ以外の領域も継続的に引き合いがある。フィジカルで動く MR が中心でリモート対応を行っている。

Q.製薬ソリューションの CRO の受注残のうち、コロナ以外の伸びはどうか。

⇒2Q の受注については、コロナ関連の治療薬やワクチンの案件が割合を占めている。

Q.EPS が 2 月に CRO 事業を再編したが、市場の競争環境に変化は生じているか。

⇒EPS というより、治験のグローバル化に伴い、日本に拠点を持つグローバル CRO との競争が激化している。これに対し、日本に拠点を持たないグローバル CRO 等との連携を進め、グローバル治験の獲得に努めている。

また、製造販売後の案件が増加しており、その領域では国内 CRO とも競合しているが、難易度の高い試験は当社の強みとするところでもあり、引き合いが増加している。

Q.グローバル CRO より内資系 CRO が強みとする承認申請業務や当局との交渉などにおいて EPS との競合状況に影響はあるか。

⇒変化はない。コンサルティング業務は当社の大きな強みであり、引き合いも強い状況が続いている。

Q.治験のデジタル化が進んだ場合、中長期的な CRO への影響をどう考えるか。

⇒現在の日本の治験環境では成長余地はあると見ている。一方で、コロナを契機に医療機関側の意識変化や、従来から課題とされてきた日本の治験の効率化が進む可能性はある。